



迷った尾根

残雪あり

55歳男性、単独。小無間小屋で1泊し、残雪の大無間山を往復。大無間山登頂後、下山で道迷い。2か月後に白骨化した遺体を発見した。

ルートは推測

至：登山口

しょうむけんざん  
小無間山

△2149.7

・1621

・1826

・1875

・2109

・2010

・2085

大無間山

△2329.6

・1770

登山計画書を家、警察、入山口のポストに提出。小無間小屋で一泊し、翌日の朝3時半に起床。水2ℓとその他の日帰り装備を持って登山開始。大無間山には昼前に到着し昼食（この時お酒を飲む）。12時前に下山開始。

下山の途中で片側のアイゼンを紛失。残雪が無くなったところで地図アプリを確認。道迷いをしていたことを理解するも体力が無くなり急斜面の途中でビバーク。水も2ℓでは足りず、テントもシュラフも小無間小屋に置いてきてしまった。寒くて睡眠も十分とれず体力は益々削られていった。

翌日、残雪上を戻るときに滑落し、もう片方のアイゼンも無くした。動けなくなり救助を待つも2か月後に白骨化した遺体として偶然登山者に発見された。（HP参照）

「登山中にお酒は飲まない」、「地図アプリはこまめに確認」、「救助を待つ場合は見晴らしの良いところで待機」、「必要な装備は持って行動」など考えさせられる事例となった。